



学校法人鶴川学院
農村伝道神学校
発行人 高柳 富夫

「蛇のふたへ、鳩のふたへ」

マタイによる福音書一〇章一六節

牧師 北村 慈 郎
(日本基督教団 船越教会)

今年農伝を卒業していく方、或いは数年後に卒業していく方は、何らかの形で「み言葉に仕える」働きに携わっていくものと思います。私が牧師になって一五年位たった頃、中学生の息子とぶつかったときに、その息子からこのようなことを言われました。「お父さんは、善良な市民から説教を食っちゃべってお金を巻き上げているんだ」と。『時の徴』最新号の「聖書随想」を書いていきます上野玲奈さんという方が、その最初の所にご自分の体験を書いています。それを紹介させていただきます。

「一〇年ほど前、真剣に牧師の道を目指し始めてまもなく中学時代の恩師にこう言われたことがある。・・・「俺のような教師やお前の目指そう

としている牧師って職業は、何も生み出さない仕事なんぞ。人間に関わっていくだけの仕事なんだ。人の人生に関わっていくんだ。それだけなんだ。」と。「み言葉に仕える」働きに関わり、そのことによって飯を食う牧師という仕事は、人が食うために必要な生産を何も生み出さないばかりか、人が命をけずって得た生業（なりわい）の一部をいただいて自分が飯を食うということなのです。そのようにして人間に関わり、他者の人生に関わっていく牧師の仕事が、人をだまして儲けるペテン師ではなく、まともな仕事と言えるのですれば、それはなぜなのでしょう。みなさんには、まずそのことをよく考えていただきたいと思うのでありま

す。私は現在日曜礼拝でエレミヤ書の連続講解説教をしています。最近二三章のエレミヤの預言者批判を扱っています。この預言者批判のところ、エレミヤが預言者の何を批判しているかというところ、一つは預言者の振舞いです（三二・一二、一四）。もう一つは、預言者が語る言葉、彼らの宣教の内容そのものへの批判です（三三・一六、一七）。つまりエレミヤが批判している預言者たちは、「平和がないのに『平和だ平和だ』と言う」偽りの預言をして、人々を神にある解放と救いから遠ざけてしまっているというのです。

「み言葉に仕える」働きを担う者にとって、このエレミヤの預言者批判は自らに向けられていた言葉として読まざるを得ません。自らの振舞いとその語る言葉によって、神にある解放と救いから人々を遠ざけてしまうこともあり得るのです。そのような形で他者の人生に関わっていくとすれば、私たちは誰よりも厳し

く神に裁かれるに違いありません。私の三人の子供たちは、自分で稼いで、ほとんど言葉をもって他者の人生に関わることもなく、つましく生きています。そのような子供たちの生き方が時々うらやましく思うことがあります。自分はずいぶん牧師などという道を選んでも私が牧師の仕事が続いているのは、聖書の語るイエスの出来事には、人間と全ての自然にとつて究極的な解放のメッセージがあると信じているからです。ヨハネ黙示録の著者が語っているような、「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼の目の涙をことごとくぬぐい取ってください。もはや死もなく、もはや悲しみも労苦もない。最初のものは過ぎ去ったからである（二二・三、四）」という終末的な世界がイエスによってこの世の現実に入っていることを知らされているからです。ですから、パウロと共にこのように信じたいと思っています。「神の国は、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです。このようにしてキリストに仕える人は、神に喜ばれ、人々に信頼されます。だから、平和や互

いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか」（ローマ一四・一七―一九）と（傍点筆者）。

そのように「み言葉に仕える」働きを担う者の業を考えるとときに、マタイ福音書一〇章一六節の弟子派遣の文脈に出てくる「蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい」という言葉が心に響きます。マタイ福音書一〇章の「十二弟子派遣」の記事はマタイ教会の状況が反映されていると思われませんが、ここで重要なことは、派遣された弟子たちがなすべきことは、イエスの業の継承にあるということなのです。神の国の宣教と病者の癒し、悪霊の追放というイエスの業は、あらゆる抑圧と差別からの解放のメッセージです。このイエスの業の継承こそが、弟子の働きであり、また「み言葉に仕える」働きを担う者のなすべきことではないでしょうか。

私たちはこの世にあつて覆いをかけられているこのイエスの真理が、必ずや覆いを取り除いて現れてくることを信じ、イエスの業を継承する弟子の働きに、「み言葉に仕える」働きを担う者として、多くの兄弟姉妹と共に参加していきたいと願います。（六七回卒業式メッセージより）

安全保障関連法廃止！
辺野古新基地建設反対！

新任教師紹介



川島 堅二

四月から農伝の教師に就任しました。よろしくお願ひ致します。

東神大で組織神学(修士)、東大で宗教学(修士・博士)を修め、日本基督教団の教師として東京教区(駒場エデン教会)で担任教師を五年、神奈川教区(相模原南教会)で主任担任教師を五年務めました。その後、恵泉女学園大学に招かれ教務教師として二十三年働かせていただきました。農伝校長の高柳先生は東神大の同級生で、当時から神学的関心を共有しておりましたので、このたび高柳先生とともに神学教育を担えることを大変光栄に思っております。

今日に至る私の神学的関心を方向付けているのは東神大在学中の後半四年間神学生として在籍した川崎戸手教会(当時伝道所)での経験です。東神大の教室で語られる神学と、教会が置かれていた状況(多摩川の河川敷の在日韓国朝鮮人居住区)のはざままで、教会

がこの世に発するメッセージの質、内容を徹底的に問われました。当時同教会の牧師であった関田寛雄先生のご指導も今日に至るまで指針となり続けています。関田先生の大ききには到底及びませんが、先生も熱情を注がれた農伝で教師として働けることも大きな喜びです。

教務教師として大学で働き始めたのが一九九四年、おりしもオウム真理教の一連の犯罪(松本サリン事件、地下鉄サリン事件)が起こった時期で、多くの若者が救済の名のもとに取り返しのできない犯罪に手を染めてしまった事実を知り、いわゆるカルト宗教に対して関心を持つようになりまして。キリスト教のカルト化は古くは統一教会問題として知られていました。が、九十年代からは大学のキヤンパスで東京キリストの教会(ポストン運動)、摂理(キリスト教福音宣教会)、ヨハン教会などの被害が広がっており、こうしたキリスト教のカルト化への対応もまた宣教の重要課題であると認識しています。それは排他的な原理主義の問題で、それとの取り組みから農伝でも昨年非常勤で担当した「宗教の平和学」の構想が生まれてきました。

農伝での今年の授業はこの

「宗教の平和学」と、私の狭い意味での専門であるシユライアマハの神学と哲学を扱う「宗教学特講」です。前職の教養系女子大ではできなかった専門的な授業を展開できることが大きな喜びです。

出席教会は東京教区東支区の下谷教会です。両親も長く役員を務めた母教会で、この教会を戦後長く牧された菊池吉弥先生から洗礼も受けました。どうぞよろしくお願ひ致します。



平良 愛香

「平良さんの前髪はどうして一房だけ長いのですか」と尋ねられることがよくある。(前に垂れるのが邪魔で後ろに流していることが多く、後ろ髪だと思っている人もときどきいるが。)これは二〇〇四年四月に、辺野古基地建設のためのボーリング調査が開始した際、浜でみんなと一緒に座り込みの阻止行動に参加してから一度も切っていない髪である。関東に戻るとき、「一時たりとも辺野古のことを忘れない方法」として考え出した苦心の策(?)であり、実際ひ

と時も忘れたことはない。この前髪は、当時働いていた鶴川シオン幼稚園で子どもたちのいいおもちゃになっていた。「アンテナ」「つの」などと呼ばれ、三つ編みできつく編まれた前髪を機会あればジャンプして掴もうとする園児たち。けれど時々、「どうしてそこだけ長いの」と丁寧に尋ねてくる園児がいる。そこでこう答える。「僕の家族のいる沖縄では、いま戦争の準備をしている人たちがいる。でもそれを止めている人たちもいる。僕はそのことをいつも忘れないでお祈りできるような、髪を伸ばすことにしたんだよ。」数年前、卒園児に再会した。その子は僕の前髪に気づいてこう言った。「沖縄の戦争の準備はまだ続いているんですね。」

前髪を伸ばすなんてささいな、そして意味のないことかもしれない。あまりにも邪魔だと思っただけでも何度もある。けれど、辺野古のこと、沖縄のことを伝える一つの道具となっていてことに気づかされる。新宿二丁目の行きつけのゲイバーでは、僕の前髪を「愛香ちゃんの前髪」と名付けて見守ってくれているマスターや常連客がいる。「テレビで沖縄や辺野古が出てくると、

愛香ちゃんの前髪を思い出すんだよ」と。このたび、農伝の教師となり、新たに開講される解放講座E「沖縄と教会」という科目を担当することとなった。何を伝えられるのか、きちんと伝えられるのか。そのような不安は決して少なくないけれど、「沖縄の問題」ではなく、「日本の問題」「日本のすべてのキリスト者の問題」であることに共々に学んでいければと願っている。「沖縄を見ずに宣教をしよう」とすると、問題と方向を大きく見誤りますよ」と言った人がいる。その言葉をしっかりとつないでいきたいと思う。

改めてプロフィール

平良愛香(たいらあいか) 男性同性愛者。一九六八年、米軍占領下の沖縄に生まれる(だから昭和でもないし、沖縄県でもない)。アイデンティティは日本人ではなく「ウチナシチュ」。一九九八年に農伝を卒業。四谷新生教会の伝道師を務める傍ら、鶴川シオン幼稚園の保育補助として働く。その間、シオン幼稚園と同法人である農伝の敷地内の建物(ガリラヤ寮)を借りて六年ほど暮らす。なので農伝で暮らした年数は十年以上。一九九八年から解放講座C「性差別問題講座」(各年)を

農村伝道シンポジウム報告

農村伝道神学校 川浦 弥生

担当。(二期期ほかの講師が担当されていたが、数年前に復帰。)

今年からはこれまでの非常勤講師から、「沖繩」「性差別」を交互に担当する教師となるらしい(あくまでも予測)。

現在、日本キリスト教団三・一教会牧師(相模原市)。平和を実現するキリスト者ネ

二〇一七年二月一日、農村伝道神学校において「農村伝道シンポジウム」が開催されました。講師は日本キリスト教団北海教区名寄教会協力牧師、カナダ合同教会元宣教師のロバート・ウィットマーさんでした。ロブさんは一九六九年に来日し、一九七五年に道北クリスチャンセンターに赴任し、一九八〇年より同センターの館長を務められました。

「農村伝道とは何か」一緒に考えましょう」と題してロブさんの五〇年にわたる経験を共に辿らせていただきました。その歩みは、「人との出会い」自分を出す・分かち合い「関係を築く」お互いに学びあう「新たに会おう」という循環に貫かれていました。

ット事務局代表、カトリック中央協議会HIV・AIDSデスクメンバー、セクシュアル・マイノリティ・クリスチヤンの集い「キリストの風」集会代表、ほか。

皆さま、ゆたしく、うにげーさびら(よろしくお願いたします)。

パートIは「命の側に立つて」、「神を愛し、人を愛し、土を愛する」ために創立された道北三愛塾の働きが紹介されました。一九六〇年にフロイド・ハウレット宣教師によって創立された道北三愛塾と道北センターが最初に力を注いだことは「家庭づくりパートナー」でした。その結果、複数のパートナーシップが成立しました。七〇年代には農に携わる女性としての悩みをわかちあう「若妻の集い」がリレーノートという形で続けられ、生活者としての赤裸々な思いが綴られました。八〇年代には新しい主事たちの下で精神障がい者通勤寮創立、「女性から見た農業と人生」プログラム開始、カナダ合同教会ロンドン教区の農民との交

流の旅等に発展していきました。九〇年代に社会福祉法人「道北センター福祉会」を創立、農業と食べ物を考える集いが始まり、その活動の中から私たちにうまく知られるようになった『おいしいお便りレシピ』ができました。

二〇〇〇年代には大きなテーマである「つながっていく」ために具体的な模索が続けられました。一般の人たちに呼びかけてコメ作りを通して土とのつながりを体験してもらったのは、人間には土とつながる経験が必要だ、との思いからだそうです。また、考え方ややり方、規模の違いを超えて農場訪問をし合ったのは、農は人間関係の中での営みだから、なのだそうです。その意味で新規就農者とのつながりも大切にしました。教会では聖書が農について何と言っているか、生産者が聖書を読んだ時に、農をどう考えていくかという視点を持ちながら学び合いました。そして「食糧を作ることは、平和を創ることである」という真実がみえてきたそうです。そのことは「愛と平和のトマトジュース」に結実し、売り上げは平和活動のために使われています。

パートIIは「弱さの力」と題して北海教区道北地区の農村(小規模)教会の取り組み

みが紹介されました。二〇一五年度一〇教会の会員数は三六五名、会員二五名以下の教会数は七教会。このような道北地区の長期宣教計画は「顔と顔を合わせよう つながらう」とともに働こう」であり、教会巡りスタンプリナーなど楽しみながら取り組む工夫を凝らしています。代務体制の教会は稚内教会、名寄教会、士別教会、和寒伝道所、旭川星光伝道所、美馬牛福音伝道所。その中で和寒伝道所は会員二名に対し、礼拝の平均出席者数二三名。月一回の礼拝には他教会からの出席者があるからなのだそうです。

また、カナダ合同教会についても、全員が仕える人であるという考えによって生み出された信徒宣教者を始めとした取り組みが紹介されました。「伝道とは人と出会うこと」というロブさんの熱い語り口に喜びを感じるひとときでした。

《聴講生を募集します》

農村伝道神学校は信徒に開かれた神学校です。以下の講義を公開して信徒の宣教力を養成し、また教職の継続教育にも力を入れています。神学校の豊かな自然の中で、

と一緒に学びませんか。聴講をお申し込みください。なお、「集中」とあるのは集中講義です。詳細は事務室にお問い合わせください。

・聴講料は(一科目) 通年三万円(半期一万五千元)です。
・科目要項「時間割」「聴講願い」をご希望の方は事務室までお申し込みください。

- ・前期：二〇一七年四月一日(火)～七月一日(木)
- ・後期：一〇月三日(火)～二〇一八年二月二日(金)

- ◎二〇一七年度聴講可能科目と担当講師(火曜)金曜順
- ・礼拝学 (小海 基)
- ・宗教の平和学 (川島堅二)
- ・旧約概論 (牧野信次)
- ・解放講座E「沖繩と教会」 (平良愛香)
- ・実践神学特講I・II「解放の神学」 (堀江有里)
- ・旧約神学 (牧野信次)
- ・霊性とキリスト教倫理I・II (石井智恵美)
- ・アジア諸語「中国語」 (多田 恵)
- ・世界キリスト教史(大倉一郎)
- ・解放講座B「在日の人権」 (孫 裕久)
- ・牧会学 (禿 準一)
- ・社会学 (西村大介)
- ・新約原典I・II (吉田 忍)
- ・ギリシャ語文法 (吉田 忍)

- ・英書講読 (吉田 忍)
- ・新約釈義 (絹川久子)
- ・近現代教会史Ⅰ (小田部進一)
- ・近現代教会史Ⅱ (豊川 慎)
- ・新約時代史 (山野貴彦)
- ・キリスト教概論 (滝沢 貢)
- ・農業実習Ⅰ・Ⅱ (池迫直人)
- ・農村伝道論 (池迫直人)
- ・新約神学 (山口里子)
- ・教義学 (織田信行)
- ・ヘブライ語文法 (飯郷友康)
- ・旧約聖書時代史 (飯郷友康)
- ・旧約原典Ⅰ・Ⅱ (飯郷友康)
- ・日本基督教団史 (瀬戸英治)
- ・黙想(坐禅) (高柳富夫)
- ・旧約釈義 (高柳富夫)
- ・新約概論 (田中健三)
- ・キリスト教教育 (本田栄一)
- ・日本近現代史 (武田利邦)
- ・宗教学特講 (川島堅二)
- ・オルガンⅠ・Ⅱ (三宮千枝)
- ・解放講座A「部落解放」集中 (川島堅二)
- 二〇一八年二月二二～二六日 (小林 明)
- ・日本宗教史 集中 (戒能信生)
- 七月二五～二八日
- ・接心 一二月二二～二六日 (佐藤 研)
- ・一日坐禅会 (佐藤 研)
- 六月一二日と一〇月二三日 (佐藤 研)

学報

◆一二月二二日(火)
二〇一七年度生第一回入試
一名合格

2017年度入学案内

◆受験資格

- (1) 日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後1年以上(洗礼式を行わない教派については、それに準ずる)の教会生活をしている者。
- (2) 所属教会が推薦し(可能であれば)、高卒または同等以上の学力を有すると認められる者。

◆修業年限

- 神学基礎コース：2年間(2年間で修了することも可)。
- 神学専門教職者養成コース：2年間
- 神学専門信徒宣教師養成コース：1年間または2年間

◆学費

- 入学金 60,000円(入学時のみ)
- 授業料 240,000円(年額)
- 設備費 30,000円(入学時のみ)

◆受験手続

- 次の書類を期日までに郵送または持参する。
- (1) 入学願書(本校指定の書式)
- (2) 履歴書(本校指定の書式)
- (3) 教会(牧師または役員会)の推薦書(可能であれば)
- (4) 最終学校卒業証明書(または卒業見込み証明書)
- (5) 受験料 10,000円(振り込み)

◆入学願書受付

- 第1回 2017年10月3日(火)～11月3日(金)
- 第2回 2018年1月5日(金)～2月6日(火)

◆入学試験日時

- 第1回 2017年11月21日(火)午前9時～午後3時
- 第2回 2018年2月20日(火)午前9時～午後3時

◆会場 本校教室

◆入学試験科目 (1) 小論文 (2) 旧約聖書・新約聖書 (3) 面接

◎入学願書一式、過去の試験問題集は、本校事務室まで請求ください(無料)。

農村伝道神学校

〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024
 Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711
 Eメール: noden@pony.ocn.ne.jp
 ホームページ: http://www.noden.server-shared.com
 振替番号
 農村伝道神学校 00160-6-18485
 農村伝道神学校後援会 00120-6-24418

◆一二月二(金) アドヴェンツ

ト礼拝 メッセージ・菊池謙牧師(山谷兄弟の家伝道所)
 ◆一二月六日(火) 一〇日(土) 今年度特別講義「接心」指導・佐藤研師 二〇名参加
 ◆二月一日(水)
 農村伝道シンポジウム
 講師・R・ウィットマー元宣教師(カナダ合同教会)
 テーマ「農村伝道とは何か」皆で考えよう」
 ◆二月五日(水) 卒業論文・卒業研究発表会
 ◆二月二一日(火)
 二〇一七年度生第二回入試
 一名合格
 ◆三月一日(水) 第六七回卒業式 メッセージ・北村慈郎牧師(船越教会牧師・本校講師)「蛇のこくとく、鳩のこくとく」卒業生四名、修了生一名。
 ◆校長は紅葉坂教会礼拝説教、

◆鶴川シオン幼稚園を認定子ども園に移行させるため、その準備をおこなっている。このため、樋口哲夫氏を準備室長に委嘱した。認定子ども園として園児を受け入れるために、現行の園児定数を減らすこと、厨房施設を整えることなどが求められている。

農村伝道神学校は多くの支援者の献金によって支えられ

理事会議員会報告

希望ヶ丘教会クリスマス礼拝説教と第四回神奈川教区オリエンテーションでの講師「教職論・信徒論」を務めた。
 ◆二〇一七年度の教師会体制は以下の通り。
 校長・高柳富夫(一年留任)
 教師・池迫直人、大倉一郎、川島堅二、平良愛香

お知らせ

◆二〇一七年度入学式 四月五日(水) 午後一時三〇分
 農村伝道神学校礼拝堂
 説教「神とは何か」
 校長 高柳富夫
 (書記 横野朝彦)
 ているが、後援会献金・維持献金ともに逡減しており、支援の輪を広げていくこと、また同窓生たちのかかわり強化が必要とされている。
 本年三月に開催される理事会ならびに評議員会では、厳しい財政状況下における次年度予算、ならびに今年度補正予算、神学校次期校長人事などが諮られる。神学校校長は高柳校長の任期一年延長が決まる予定。

式後茶話会。ご参集ください。
 ◇四月六日(木)
 ・午前九時より新入生オリエンテーション
 ・午後一時～二時三〇分「始業講演」(公開とします)
 テーマ「ヴェニス商人を知っていますか」
 講師・西村大介氏(本校講師)
 ・午後三時より全学生オリエンテーション
 ◇四月七日(金) 九時～一六時
 禪キリスト教入門オリエンテーション
 講師・佐藤研氏(立教大学名誉教授)
 ◇この度、高橋信子様のご遺族(深田寛様、深田遺様)より、神学教育のために多額のご寄付をいただきました。ここに心からの感謝をもってご報告させていただきます。
 ありがとうございます。